



歯科トピックス

『親知らず、抜くべきか 抜かざるべきか?!』

愛知三の丸クリニック 歯科部長 原 康司

● “親知らず” 豆知識

永久歯は5～6歳頃から乳歯と生え替わり始め、12～13歳頃までに萌出が完了します。その後、16歳くらいから20歳代前半にかけて、前から数えて8番目の歯が萌出することがあり、これを俗に「親知らず」といいます。他に歯科では「第3大臼歯」「智歯」「8番」などともいいます。親知らずの語源には諸説ありますが、有力なのはかつて人間の寿命が50歳程度であった時代に、この歯が生え始める頃には親は亡くなっており「親は知らない歯」、つまり「親知らず」という名称になったとする説です。他に、乳歯の生え始めとは違い、親がこの歯の生え始めを知ることはない。そのため親知らずという名が付いたという説。親知らずは乳歯から生え替わることがないため、乳歯を永久歯の親に見立てて「対応する乳歯がない」ことから「親知らず」というようになったという説などがあります。英語では「wisdom tooth (知恵の歯)」といい、これは大人になって物事の分別がつくようになった頃に生える歯という意味だそうです。親知らずは全ての人が4本生えてくるわけではなく、上下左右の4本が揃わない場合もあるほか、おおむね4人に1人の割合で全く生えてこない人もいます。



「親知らずは抜いた方がいいのか？」とよく聞かれます。面倒だし、痛いだらうしと大方の人ができれば抜かずに済まないかとお考えでしょう。結論から言えば、ケースバイケース、最終判断は本人が…ということです。

●親知らずの生え方次第

親知らずが正常に生えており、上下がきちんと咬み合って機能していれば抜く必要はありません。問題となるような支障のない場合は、しっかりとした歯を余分に得たことになり、ブリッジや入れ歯の支台として有効に使えます。手前の大臼歯を失った時に代用歯として移植が可能な場合もあります。

親知らずと一言でいってもその状態は千差万別です（別添資料1参照）。現代人は食生活の変化などで顎が小さくなってきているといわれており、親知らずは最後に生えるためまともな並ぶスペースがないことが多く、そのためいろいろ問題を生じさせます。



●親知らずの抜歯が必要な場合

親知らずは歯ブラシが届きにくく、虫歯や歯周病が進みやすい歯です。正常に生えて咬み合っている場合でも、ひどい虫歯や重度の歯周病になっている場合には抜歯が必要です。親知らずが斜めや真横になっていて、頭（歯冠部）が見えている場合はむし歯や歯周病が生じやすく抜歯の適応となります。また、親知らずが手前の歯を押し、歯並びに影響がある場合、対向する親知らずが無く向かいの歯肉や頬粘膜に接触して傷つける場合、レントゲン上で親知らずの周囲に嚢胞と呼ばれる袋状の影がある場合なども抜歯することを考えます（別添資料2参照）。ただ、親知らずがあってもケアが適切にされて（これがなかなか大変ですが…）、虫歯や歯肉の炎症、歯周病などの支障がない場合や骨の中に完全に埋まっていて歯列への影響や歯肉の炎症などの不都合な症状の全くない場合は抜歯の必要はないと考えられます。

●親知らずの抜歯について

親知らずの抜歯は上下や各症例によって異なりますが、基本的には図1のような術式となり、肉体的精神的侵襲も加わります。最近では病院の口腔外科で短期入院（1泊2日程度）の上、場合によっては鎮静下（薬剤で眠った状態）で施術する方法が多くなっています。多数歯抜歯の場合は一度で済むことや術後の管理がしやすいなどの利点があるためです。

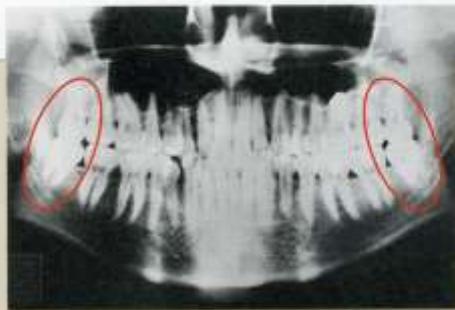
抜歯により抜歯後疼痛、出血、施術部周辺の腫れ、開口障害、嚥下困難などの合併症は発現しますし、まれに親知らずの近くの神経の損傷から知覚麻痺が発生するリスクもあります。従って、抜歯にあたってはかかりつけ歯科医師や抜歯を担当する歯科医師とよく相談し納得のいく説明を受けた上で、自身の抱えた症状と抜歯の際のリスクを勘案し、最終的にはご自身で判断することになります。

【図1】

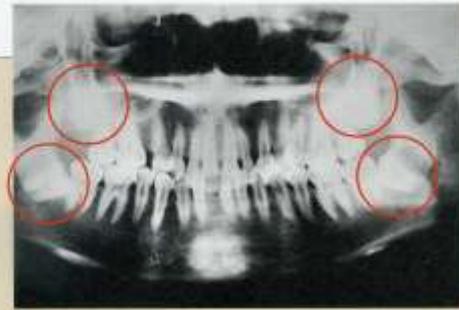


【別添資料2】

【 智歯抜歯が必要となる理由 】



顎が十分に発達していれば、智歯は正常に萌出し食物を噛むことができる。



顎の発育が不十分だと、智歯が萌出するスペースがなく骨内に埋伏してしまうことが多い、埋伏した智歯はさまざまな傷害をもたらす。



智歯周囲炎。



骨膜炎を惹発する。



第二大臼歯遠心面がう蝕になる。



炎症のため智歯周囲の骨が吸収する。
第二大臼歯の歯根が吸収する。
第二大臼歯遠心に非可逆的な歯周ポケットが形成される。





含歯性嚢胞を形成する。



第二大臼歯に萌出異常を起こさせる。



他の歯を押し出して歯列不正が生じる
(症例はア舌側傾斜)。



同患者のX線写真。



下顎角部の骨折を起こしやすい。



歯周病セルフチェック 「あなたは大丈夫？」

歯周病は歯を失う大きな原因であり、糖尿病や動脈硬化などほかにもさまざまな体の病気とも深いかわりがあります。次のようなチェックで早めに見つけて治療・予防をしましょう。

歯周病セルフチェック

次の項目の当てはまるものに、チェックを入れてみてください。

- 歯ぐきが赤く腫れている。
- 口臭がなんとなく気になる。
- 歯ぐきがむずがゆい・痛い。
- 歯を磨くときに、出血する。
- 歯と歯の間にすき間ができ食物がはさまるようになった。
- 歯が長くなったような気がする。
- グラつく歯がある。
- 硬いものが噛みにくい。

《判定》

○チェック項目がない場合

これからも歯みがきを心がけ、1年に1回は歯科検診を受けましょう。

○チェック項目が1～2の場合

歯周病の可能性ががあります。歯みがきの方法を見直し、念のために、かかりつけの歯科医院で歯周病ではないか、歯みがきがきちんとできているか、確認してもらったほうがよいでしょう。

○チェック項目3以上の場合

初期あるいは中程度以上の歯周炎があり歯周病が進行している可能性があります。早めに歯科医師の診断・治療を受けましょう。

歯周病は静かに進む病気です。

歯周病が糖尿病や高血圧症などの生活習慣病と共通しているのは、初期段階で自覚症状がないことです。気づいたときには、かなり進行しているケースが多いのです。

また、次のような方は歯周病が起こりやすくなると言われています。

45歳以上の方 喫煙者 妊娠中の方 糖尿病にかかっている方

これらの方も、一度歯科医療機関(かかりつけ歯科医院)で検査を受けることをおすすめします。

●11月8日は「いい歯の日」です。

日本歯科医師会が、「いつまでも美味しく、そして、楽しく食事をとるために、口の中の健康を保っていただきたい」という願いを込めて、厚生労働省とともに1989年(平成元年)より「80歳になっても自分の歯を20本以上保とう」という「8020運動」を積極的に推進しています。

愛知三の丸クリニックの診療科目と診療時間

【診療科目】

内科、外科、眼科、皮膚科、歯科・歯科口腔外科、小児心療科

【診療時間】(都合により担当医師が変更となる場合があります。)

診療科目	時間	月	火	水	木	金
内 科	午前	(循環器)松波 (血液)岸本	(内分泌)福井 (循環器)松波	(血液)下川	(消化器)岡田	(内分泌)浅井※2 (血液)緒方
	午後	(呼吸器)※1 (血液)緒方	(血液)緒方	(循環器)松波	(循環器)宮部	(循環器)松波
外 科	午前	—	—	—	鈴木	—
	午後	—	鈴木	—	—	—
眼 科	午後	鶴田(第1・3・5週) 小口(第2・4週)	—	—	生方	—
皮 膚 科	午後	—	—	—	嘉陽(第1・3・5週) 梶村(第2・4週)	—
小 児 心 療 科	午前	—	—	古橋	—	栗山
	午後	—	—	古橋	—	栗山
歯 科 歯科口腔外科	午前	原	原	原	原	原
	午後	原	原	原	原	原

(※1) 月曜午後の呼吸器は、第2週と第4週のみ診察します。

(第2週は中畑医師、第4週は岡医師、石田医師、重松医師のいずれかが診察します。)

(※2) 金曜午前の内分泌は、第2週と第4週のみ診察します。

【診療受付時間】

午前： 8時50分から11時00分まで

午後：12時50分から15時30分まで(眼科は15時00分までの受付です。)

※小児心療科は完全予約制となっております。

【その他】

休診日については、院内掲示もしくは当クリニックホームページでご確認ください。

URL：<http://www.sannomaru-hp.jp/>

医科の再診の場合は、総合受付または電話(医科予約受付専用電話：052-961-7012)にて予約を受け付けます。

歯科の予約は、歯科受付窓口または電話(歯科予約受付専用電話 052-950-0560)にて予約を受け付けます。

各種健康診断・人間ドックのお問い合わせは、電話(052-950-0500)にてご連絡ください。

外来よりお知らせ

【花粉症について】(内科)

花粉等の影響による諸症状(鼻づまり、鼻水、目のかゆみ、くしゃみ、咳等)でお困りの方やご自身のアレルギー(アレルギーの原因物質)をお知りになりたい方は、当クリニックにお任せください。

医師による診察(医師の判断による血液検査等)を行い、必要に応じて内服薬、点鼻薬、点眼薬等を処方します。

【禁煙外来について】(内科)

当クリニックでは、毎週水曜日の午前に、内科の下川医師の指導・管理の下に内服薬を用いた禁煙指導(禁煙外来)を行っています。

内服薬による禁煙をご希望の方は、お気軽にご来院ください。

【AGA(男性型脱毛症)について】(外科・皮膚科)

AGA(男性型脱毛症)による薄毛でお悩みの方は、外科(毎週火曜日の午後、木曜日の午前)及び皮膚科(毎週木曜日の午後)において、医師の診断の下に内服薬フィナステリド錠(プロペシア錠)の処方を行っています。

AGAは少しずつ進行しますので、できるだけお早目の受診をお勧めしています。

(当クリニックにご来院の際は、組合員証(保険証)、診察券(初めての方を除く)を持参し、総合受付にお申し出ください。)

編集後記

11月の臨時号は「い(1)い(1)歯(8)の日」にちなんで歯科特集です。肥満や生活習慣病の予防のためには、いろいろな食べ物をバランスよく食べることが大切です。食べるためには健康な歯が欠かせません。いつまでも健康な歯を保ち、全身の健康寿命を延ばしましょう♪

愛知三の丸クリニック

住 所 名古屋市中区三の丸3-2-1
電 話 052-961-7011(代表)
052-961-7012(医科予約専用)
052-950-0560(歯科専用)
052-950-0500(健診専用)

(一般用)